

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月 9日

【評価実施概要】

事業所番号	3691200020
法人名	社会福祉法人 有誠福祉会
事業所名	グループホーム 希
所在地	徳島県名西郡石井町石井字石井1994 (電話)088-675-1036

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年 1月 31日

【情報提供票より】(平成20年1月10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 5月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	11 人	常勤 10人, 非常勤 3人, 常勤換算 希1 5.15人, 希2 6.6人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費
敷 金	有(円)	○無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1,000 円			

(4)利用者の概要(1月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	8 名	要介護4	1 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.5 歳	最低 63 歳	最高	95 歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・手束病院	・松岡歯科
---------	-------	-------

徳島県 グループホーム希 1

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは平成19年5月に新しく開設され、養護老人ホームと同じ敷地にある。周りには田園風景が広がり、心を和ませてくれる穏やかな環境である。玄関には季節の花が置かれ、ホールにもソファ等置かれ、利用者が落ち着いて生活ができるような工夫がされている。利用者は、地元の方が多いため友人や近隣の方がホームに遊びにくるなど地域との交流も図られている。新しいホームであるが、職員はやりがいを持ってケアに取り組まれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>今回が、はじめての外部評価である。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>初めて自己評価を実施し、管理者と一部の職員のみで作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>昨年5月に開所され、それから2回開催している(3ヶ月に1回)。利用者、家族、行政担当職員、地域包括支援センター職員、家族会会長等で構成され、会議に関する書類・記録が全て整理保存されている。職員間にも内容の伝達がされている。しかし、確認印やサインは無かった。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会等で、意見や苦情、不安などを聞いている。会議録や参加者名、討議内容等が整理され保存されている。また、参加できなかった方にも写しを配布し、周知徹底が図られている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>利用者は地元の方が多く、家族の人は毎日だったり、少ない人でも週に1度は来られて、地元の人々と理想的な関係が築かれつつある。</p>

社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念が、ダイニングやスタッフルーム等のわかりやすい場所に掲示されている。地域密着型サービスとしての理念が作られている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は日々の活動の中で理念を活かしたケアサービスに努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者に地元の人が多く、全員の家族が毎週面会されるので、開所して短期間ではあるがコミュニケーションが取れている。また、自治会には加入していないが、地域自治会の清掃活動に参加するなどしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価については開所間もないこともあり、管理者と一部の職員のみで作成している。	○	全職員で取り組み、話し合いながら作成されることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の開催は、8カ月の内で2回行われている(3ヶ月に1回)。利用者、家族、地域代表者、行政担当職員、地域包括支援センター職員、家族会会長等で構成され、会議に関する書類・記録が全て整理保存されている。職員間にも内容の伝達がされている。しかし、確認印やサインは無かった。	○	会議は2ヶ月に1回開催されたい。内容は全職員に周知し、確認印やサインなどの仕組みを作られたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	法人が地域包括支援センターの事業を受託しており、常に行政との連携を調整してもらえ、相談助言がスムーズに行える体制を作っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	3カ月に1回「希だより」の発行と同時に家族会を開催しており、暮らしぶりや金銭管理の報告、確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	どの家族もよく訪問されるので、その都度意見を聞いたり利用者の状況についても報告している。家族の協力を得る為に常にスタッフから声かけをして理解を求めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開所して10カ月と日も浅いので、病気のため退職された1名以外は異動も離職もない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画、研修参加後の復命書等の記録はあるが、記録者、参加者以外の職員が見た確認やサインが見られない。	○	研修報告は全職員に回覧し、確認印、サインなどの仕組みを作られたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設間もないが、研修会に参加するなどし、同業者との交流ができるよう取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に管理者が面接を行ったり、利用者にホーム見学をしてもらったりしている。また、入居後には家族にお願いをして何度か続けて面会に来てもらい、利用者の不安をなくす配慮がされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者、職員がお互いに支え合い、一つの家族であるような環境作りに取り組まれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の行動や言動から求められる意向を汲み取るよう心がけている。聴きとりや判断不能な時は、家族と相談して本人本位のサービス提供に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の様子や健康状況を基に、家族の意見も聞きながら介護計画を作成をしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	変更を必要とする時は、カンファレンスを行い、定期的見直しも行っている。また、その状態・状況により計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族や本人の要望により、通院の送迎や墓参りなどの支援も柔軟に対応し、個々の満足度を高めるよう努力している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の意向を大切に、かかりつけ医への受診など、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期について話し合い、職員、家族等関係者で共に方針を共有している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重し、優しい声で利用者に合わせたペース、話し方がされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	野菜づくりの得意な方は午後になれば畑の作業をしている。過去に書道の先生をされていた利用者はホーム内に提示するあらゆるものを筆で書いたり、その人その人の能力を活かす支援がされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が農園で育てた野菜を食卓にのせたり、調理は併設特養でされるので盛りつけはいつも一緒に行っている。朝のみそ汁やサラダ、なますなどをみんなで作って味わっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望に合わせて入浴支援されている。また、その日の体調にも配慮し、入浴を楽しめるよう配慮している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの好みや能力を活かす働きかけに心掛け、特に畑仕事の好きな方は畑に出て野菜作りを行い、食事の材料を提供できる喜びやみんなに必要なとされる存在感を味わえる支援がされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームの周辺は田んぼや畑に囲まれており、周辺を散歩したりしている。また、どこにいても陽のあたる環境であるため、日向ぼっこをしたりして、日々戸外にでられるよう支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外からの訪問者は何時でも入れるが、現在徘徊される方が数名おり、危険なので安全を期するために中から外には出られない電子ロックがかけられている。	○	利用者への対応を検討され、鍵を掛けないケアに取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域住民の協力を得られるまでには至ってないが、防災訓練、避難訓練はされている。防災計画書も作成されていた。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量については全員の記録がされ、把握されていた。副食は併設施設から運ばれているが、主食と朝食はホームで調理している。隣接施設の栄養士に栄養バランスのチェックをしてもらっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには、季節の花を飾ったり、食卓に季節の食材をのせるなどし、季節感を感じられる工夫がされている。若いスタッフが多いが、孫と祖父母のような関係の様子が感じられ、ゆったりとした雰囲気作りがされていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた物などが持ち込まれ、個性を出す工夫がされている。また、毎日使用する、湯飲み、茶碗、椀は、使い慣れた自前の物を使用されている。		